

第１回 港湾工事における大規模仮設工等に関する技術検討委員会

議 事 概 要

日 時：平成２６年１２月２５日（木）１０：００～１２：００

場 所：合同庁舎第４号館１階１２３会議室

出席者：磯部委員長、高橋、菊池、大幢、佐藤、小泉、山崎、平尾、尾崎、
浅輪、遠藤、松永、米山（代理）、水谷、井山各委員 他

1. 主な議事

○事務局より委員会の設置経緯・設置目的、スケジュールおよび検討課題、検討体制について説明すると共に、検討委員会メンバー等より意見交換を行った。

2. 主な意見等

【委員会の設置経緯・設置目的、スケジュールについて】

○港湾工事の大規模仮設の範囲は、巨大規模に限るものではない。規模にかかわらず、従来の知見が少ないものについては採りあげるという方向である。
また、仮設工という明確な定義は困難であるが、施工中において安全に留意するものを含めて検討すべき。

○事故が起こりそうであったとか、あるいは事故になったという事例について、より多くの知見を収集することが、この委員会の成果のカギになる。

○栈橋・栈台等についても重要であるため、今後、事例を収集する必要がある。

○事例の収集は失敗した事例ばかりではなく、事前に回避できた事例も必要である。

○仮設工について、現行の技術上の基準に不足しているところを補うことが必要である。

【検討課題、検討体制について】

○最初からギリギリの設計をすると、後に問題が生じた場合に対処できないといった事例もある。

○基本設計・詳細設計・施工のそれぞれのコミュニケーションが少ないことが仮設工の問題発生の一因の一つではないか。

- 事故が起こった場合、事故情報が共有されない場合が多い。
- フェール・セーフ、リスクマネジメントの考えを取り入れた設計・施工方法及び“施工管理”を導入すべき。
- 仮設工事の施工費の制約により、より安全側の対策が困難である場合が考えられるため、設計段階で考慮されていれば良いのではないか。
- 土の抵抗特性および透水性についても検討に追加すべき。
- 仮設時の調査項目について検討に加えて頂きたい。
- 港湾関連の各基準で取り扱っていない内容が多々あるため、他基準との兼ね合いを含めた整理をすること。
- 施工をする技術者の技術力がどれほど担保されるのかについても重要なファクターになる。
- 事例を分析する際に、どうすれば良かったのかという点をワーキングで追及すれば、共通の課題が見えてくるのではないか。
- 大規模仮設に係る費用等について、発注者も積極的に計上する様に促す記述があった方が良い。
- 発注者側と受注者側または、設計側と施工側の両方の考え方を把握したベテランをワーキングに参加してもらえば良いと考える。
- 検討の途中段階においても、現場に役に立つ情報については活用させて頂きたく、本委員会です承を頂きたい。
- 技術基準についても現在改定に向けた検討を行っているが、今後の検討状況については、本委員会でも情報提供していきたいと考える。

(以上)